

特定非営利活動法人ala クルーズ 平成 29 年度通常総会



5月21日(日)11時より、ワークショップルーム洋室にて特定非営利活動法人alaクルーズの平成29年度通常総会が開催されました。来賓として、財団より衛館長、山口局長、杉下課長、坂崎係長にご出席いただきました。三島理事の開会の辞の後、澤野



理事長から挨拶がありました。「会員のご協力により昨年1年間を無事に終え、総会の運びになったことへの感謝と、衛館長が第67回芸術選奨の文部科学大臣賞を受賞されたことへの慶び、また設立16年目を迎え世代交代の課題を抱えつつも、益々多方面から注目されるalaという劇場で活動



できることを誇りに、更に充実したボランティア活動を目指して行こう」と話されました。次に、総会定足数の報告がなされ、正会員数47名、内出席者数24名、委任状18名で定款27条の規定により、今総会の成立が宣せられ、議長に長瀬氏が指名され、議事に入りました。議事録署名にあたり、伊藤・田中両氏の2名が選出されました。まず、第1号議案として、事業報告並びに収支決算報告の承認について、久米副理事長から事業並びに会議報告と、荒金理事から収支計算書の報告があり、瀬瀬・巾両監事より平成28年度事業及び会計について、適正であった旨の監査報告がなされました。第2号議案として、平成29年度の事業計画並びに予算案についても提案がなされました。第3号議案として、NPO法の改正に伴う、NPO法人alaクルーズの定款第10章の公告の方法についての変更があり、貸借対照表の公示についての加筆が説明され、3案とも満場一致の拍手をもって承認されました。次に来賓の紹介があり、衛館長からご挨拶がありました。「頂いた賞は、昭和25年にできた賞であり、毎年功績のあった文学者やアーティストに贈られるもので、劇場では初めての受賞になります。この受賞は個人で受けた賞ではなく、alaクルーズも含めて劇場まるごと頂いた賞だと思っています。これまでウエスト・ヨークシャー・プレイハウスを目指してやってきました。これからも追い抜き、追い越せでやっていきたい。可見は若い夫婦が子どもを連れて移住してきていて、3年前に人口増加に転じた町です。子育て支援も含めて、良い後継者を育成していきたい」と話されました。最後に土田理事の閉会の辞により総会はつつがなく終わり、引き続き創造スタッフルームにて和やかな交流会が行われました。



ダンボールの生きものの展

8月19日～27日 美術ロフト



「わあ～ 大きい！」美術ロフトに入ってきた人から出る第一声です。デンと立っているブラキオサウルス。少し曲がった首と笑っているような顔に、見上げている人達も微笑んでしまいます。この作品を手掛けたのは造形作家の玉田多紀氏です。絵画が専門だった玉田氏ですが、あ



る日ゴミ置き場に積んであるダンボールにピンとひらめくものを感じたそうです。初めは平面的な作品でしたが、動体的なものを手掛けるようになりその後、現在の躍動感あふれる作品を産み出せるようになったそうです。「ダンボールを水に浸し、剥して丸めたり貼ったりして作った作品が、乾くと色・形が変わっていくのが面白い。古紙としてのダンボールは皆が知っていて身近にあり容易に手に入る。平面や四角のイメージのダンボールも工夫次第で、今にも動きそうな動物に姿を変えることが出来るんです」と玉田氏。展示作品の大作“ジンバイザメ”は、貼って乾かしての連続で製作日数3ヶ月もかかったそうです。全長5メートルもあるため、のこぎりで半分に切断された状態で搬入されてきました。展示前日にalaクルーズのメンバーの手でベタベタとダンボールを貼ってつなぎ合わせたのです。



30代前半の華奢な女性の作品とは思えない迫力です。あちゃ～と顔に手を当てているライオン、ウェルカムのカエルなど忠実過ぎて模型にならないようにとのコンセプトの玉田ワールドが全開です。





ダンボールで生きものを作ろう！ ダンボールワークショップ

ワークショップは8月19日の午前と午後
に開催され、親子連れなど38組の方が参加
してくれました。玉田氏の指導で、まずダン
ボールを斜めに折って柔らかくすることを教え
てもらい、作成したいものの土台を作ります。
その後、水に浸して剥ぎとったダンボール
紙にボンドをつけて貼っていくのです。土



田から来た5歳の男の子は、恐竜が大好きでスピノサウルスを作るのだと頑張っていました。別の家族のお父さんは「僕が夢中になり手を出し過ぎてしまい、子どもの夏休みの宿題ではなくなってしまいました。家でもう一度作らせます」と笑っていました。日頃ボンドを使う機会があまりない子ども達は、自由にハケでベタベタ出来るので手が真っ白になっても平気で楽しそうでした。ワークショップは90分の短い時間だったので、作品完成には至りませんでした。皆の作品を前に並べ玉田氏がひとつひとつの作品にコメントとアドバイスをした後、誉めてあげていました。展示見学の60代の男性は「ダンボールがこんなに姿かたちを変えて生まれ変わってすばらしい」と感激されていました。ゴミにすればゴミ、資源として

回収すれば又ダンボールになり、それに手を加えればこんなに素敵なダンボールアートになる。何か大切なものを学んだ気がしました。ダンボールの生きもの展は8月19日(土)～27日(日)まで開催され1622人の方が観覧されました。



ダンボールアート準備 “ジンバイザメ” とご対面

8月18日alaクルーズの平成29年度事業『ダンボールの生きもの展』の作品搬入日です。遠方から早朝よりお越しいただいた造形作家・玉田多紀氏との打ち合わせ後、トラックが到着。作品の搬入と展示のお手伝いです。梱包材に包まれた作品を慎重且つ丁寧に、又どんな作品なのかワクワクしながら運び込みました。玉田氏の指示のもと定位置に配置。ジンバイザメ・恐竜・カエル・チンパンジー等子どもたちが好きな生き物が勢揃い。天井からワイヤーで吊ったり専用の額にはめ込んだりそれぞれの作品毎に設置の補助。今までチラシ等で見ていた作品を目にして、準備に参加したクルーズ一同感動しました。



最後に運搬上、真ん中で切断された長さ5メートルのジンバイザメを玉田氏のご指導で繋ぎ合わせました。水に浸したダンボールを3枚にはがし、小さく切ってボンドで貼り合わせて完成。思いがけない貴重な作業を体験させて頂きました。ちなみに完成したジンバイザメは再び切断して搬出、運搬とのことです。翌日のワークショップ会場設営の為に一部作品を移動し、ボランティアの方により照明のセッティングも終了し準備完了しました。ワークショップに参加する小

学生や、ご来場下さるお客様がこれらの作品を見てどんな表情を見せて下さるのか想像しながら、ちょっと長い一日を終えました。(A)





視察研修事業

日時	平成29年12月3日(日)
場所	穂の国とよはし芸術劇場PLAT
内容	12:00 豊橋駅集合 (JR 名鉄)
	12:15~13:15 昼食
	13:30~14:30 フロントスタッフの活動見学
	14:30~16:30 『荒れ野』 平田満主演 鑑賞
	16:45~17:30 施設見学

イルミネーション事業

9月中に第1回実行委員会を行い、その後、制作、設置。点灯式は未定。
ランプシェードワークショップは12月23日(土)予定

ただいま企画進行中



昨年のイルミネーション

フロントスタッフ事業

7月 1日(土) 劇場フロントスタッフ養成講座①	小劇場	ホワイエ	参加者	一般13名	クルーズ19名
7月15日(土) 劇場フロントスタッフ養成講座②	主劇場	ホワイエ・場内		一般13名	クルーズ19名
主催	(公財) 可児市文化芸術振興財団協力		NPO法人alaクルーズ		



2日間、多くの方の参加で一日講習を受けました。15日は開演後のお客様案内の仕方や、もぎりのやり方などを行いました。

クルーズのメンバーにとっては、復習になり、まだまだ見直す点などあって良い勉強になりました。

次回11月11日(土)は、仲道郁代ピアノリサイタルで、主劇場でのOJT(現場研修)を行います。当日のフロントスタッフを星乃先生と共に行い、勉強していきます。

編集後記

稲刈りの季節ですね。今年の夏はゲリラ豪雨が印象に残りました。傘をさして歩いていたら、急に池の中に足を踏み入れたような状況になっていました。駐車場が数十分でプールのように！信じられない光景でした。知人の畑もあつという間に水没したそうです。ゲリラ豪雨は年々増えているそうです。(ゲリラ豪雨の増加は全国的な傾向にあり、気象庁によれば全国で1時間に50ミリ以上の雨の降った回数は、1976~87年に年間162回だったのに対し、98~2007年は238回。同80ミリ以上の雨は10.3回から18.5回に増えた)地球が悲鳴をあげているのかもしれない。秋、虫の鳴き声を聞きながら、徒然れなるままに。(H)

alaクルーズ事務局 TEL/FAX : 0574-61-3414
<http://www.kpac.or.jp/ala-crews/>
 Mail : ala-crews@kpac.or.jp

ala クルーズ

戻る